

ビタミン剤の相互作用

ビタミン剤と他の医薬品との相互作用についてですが、「えっ、ビタミン剤はどんな薬と一緒に飲んでも安全だと思ってた」という声が聞こえてきそうです。確かにほとんどの場合心配ないのですが、例外もあります。



そのひとつがビタミンB₆です。ビタミンB₆は体の中で蛋白質の代謝に役立ち、神経の機能を正常に保つ働きがあり、口角炎・口内炎・湿疹・皮膚炎・末梢神経炎などに用いられる薬です。医療用のビタミンB₆製剤の使用上の注意に、相互作用としてレボドパとの併用に注意することとあります。レボドパはパーキンソン病という病気の治療薬の一つです。ビタミンB₆はこのレボドパの作用を弱めることがあるので、レボドパを服用している人は注意が必要です。ビタミンB₆は広く食品に含まれていますが、含有量の多い食品の摂取にあたっては医師・薬剤師の指示に従ってください。

もう一つは、ビタミンKです。ビタミンKは血液の凝固に関係し、またビタミンD、カルシウムとともに骨・歯の成長を促進する働きがあります。このビタミンKの服用に際し相互作用に注意しなくてはなりません。ワーファリンという「血液を固まりにくくする薬」で治療を受けている人は、ビタミンKの服用にあたっては注意が必要です。ビタミンKはワーファリンの効果を弱める作用があるからです。またビタミンKは緑色の強い野菜や海藻類に多く含まれています。ほうれん草・春菊・パセリ・ブロッコリーなどです。ワーファリンという薬を服用されている方は、必ず医師・薬剤師にご相談ください。

ビタミン剤と他の医薬品との相互作用はほかにもあります。ビタミン剤といえども、必ず医師または薬剤師の指導を受けて服用するようにしてください。